

<3年生>

1. 学習のテーマ

3年間のテーマ 伝える

2. 活動内容

小中合同ボランティア

①学習の目的

- (1) 地域や社会のために貢献できることを考えたり、計画したりすることで、児童生徒の自主性を伸ばし、地域連帯感・郷土愛を育てる。
- (2) 小中縦割りグループが協力して活動することで、小中の連携を深める。
- (3) 3年生の学習テーマ「伝える」の学びの集大成として、在校生や小学生に今回の活動の意義をしっかりと伝えることで、生徒主体の活動を実現させる。

②学習の流れ

(1) 道徳「稲むらの火」余話（9月12日）

自分たちにとって故郷・安居がどういう存在か、また、その安居地区に対して何ができるかを話し合った。

(2) テーマ決め（9月19日）

小中合同ボランティアをどのような思いを持って取り組んでいきたいか、安居地区がどのようなになっていってほしいかを話し合った。生徒からは、「住みよい町にしたい」、「ボランティアを通して感謝の思いを伝えたい」などの意見が挙がり、小中合同ボランティアの意義・目的について共通理解を持つことができた。

(3) 現地視察（9月20日）

自分たちが住んでいる地区を基本とし、7つのグループ（1グループ2～3人）を編成し、それぞれ1ヶ所ずつ担当を決めた。グループごとにボランティア場所を実際に見に行き、活動内容や準備物等について確認した。実際に現状を自分たちの目で確認したことで、当日の様子を具体的にイメージすることができた。また、プレゼンするときにはどのようなことを重点的に伝えるべきかを考えることができた。



ボランティア先の方と打合せ

(4) 道徳「町内会デビュー」（9月26日）

主人公が地域のボランティア活動に参加する前後でどのように気持ちが変わったかを話し合い、ボランティアをする意義について考えた。

(5) プレゼン作成（9月27日～）

現地視察の結果をもとに、グループごとにテーマを考えた。また、小学生や中学1・2年生へのプレゼン資料を作成した。様々な情報の中から何を伝えるか、どのような伝え方をすると分かりやすく興味を持ってもらえるようなものになるか、今まで

の学びを振り返りながら考え、工夫しながら作成していた。

(6) ボランティア内容のプレゼン（10月1日、8日）

小学生、中学1・2年生に対し、小中合同ボランティアの目的を伝え、ボランティア場所ごとにテーマや活動内容などのプレゼンを行い、どの場所でボランティアを行いたい希望調査をとった。小学生にプレゼンを行ったときの反省を活かして、中学校では少し言葉を変えて説明をするなど、プレゼンする対象に合わせて工夫することができた。



中学生にプレゼン

(7) 活動内容の最終確認（10月18日）

プレゼン後のアンケート調査により小中合同の7グループ（1グループ13～25人）に編成した。7つのボランティア場所ごとに集まり、テーマや活動内容、準備物等を最終確認した。

(8) 小中合同ボランティア当日（10月24日）

全員で小中合同ボランティアの目的を再確認した後、各場所でボランティア活動を行った。自分たちの力で安居を綺麗にすることができ、達成感を感じている生徒が多かった。また、ボランティア活動を通して安居の良さを再発見することができた。



ボランティア当日

(9) ボランティアの振り返り（10月25日）

ボランティア実施後に行った振り返りアンケートを3年生が集計・分析した。その結果をもとに、中学生がそれぞれ活動場所ごとに集まり、小中合同ボランティア全体の目的を達成することができていたか、よかったところ、改善点について意見を出し合った。

③成果と課題

今年は、小学校や中学校環境委員会が場所を選定した段階で3年生にバトンタッチし、その後は中学校3年生が中心となり、計画・運営を進めてきた。生徒が主体となり、目的を考え、その思いを全員で共通理解した上で実施したため、例年以上に全員が意欲をもって積極的に活動することができた。

今回の活動内容は清掃活動が主なものであったが、活動全体を振り返る中で、「清掃活動以外にも安居地区にこんなことがしたい」といった声が生徒から聞かれた。次回は、清掃活動だけにとらわれず、「安居地区のニーズを踏まえて私たちにできること」という視点で、3年生自身が活動内容や場所を決め、生徒が活動に必要性を感じ、より意欲を持って取り組めるように計画を立てていきたい。